

令和7年度

全国学力・学習状況調査の概要

御前崎市教育委員会



「学習」に関する調査結果

小学校6年生			中学校3年生		
国語	算数	理科	国語	数学	理科※
△	△	▲	○	◎	◎

全国平均正答率と比較して

☆ +6ポイント以上

◎ +2ポイント～+6ポイント

○ -2ポイント～+2ポイント

△ -6ポイント～-2ポイント

▲ -6ポイント以下

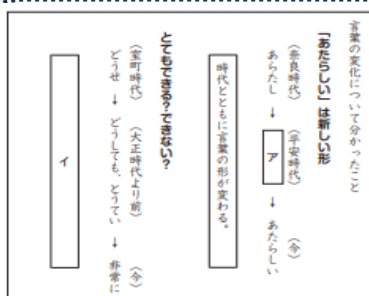
※中学理科はIRTスコアでの比較
(IRTについては次ページを参照)

国語の結果分析

小学校

中学校

良好	◇類型別 ・「我が国の言語文化に関する事項」の問題 ◇個別の問題 ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかをみる問題(知識・技能)	◇類型別 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題 ・「思考・判断・表現」の問題 ・「記述式」の問題 ◇個別の問題 ・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる問題(思考・判断・表現) ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫することができるかをみる問題(思考・判断・表現)
課題	◆類型別 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題 ・「書くこと」の問題 ◆個別の問題 ・漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題(知識・技能) ・問題や事実と感想、意見などと、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる問題(思考・判断・表現)	◆類型別 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題 ・「知識・技能」の問題 ◆個別の問題 ・事象や行為を表す語彙について理解しているかをみる問題(知識・技能)



- (2) 「本村さんのメモ」の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、「資料3」を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。
- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
 - 2 時代とともにものの使い方が変わる。
 - 3 世代によってものの呼び方が変わる。
 - 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

- 三 縦部②「しきり」との意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 寂しげに
 - 2 改めて
 - 3 何度も
 - 4 注意深く

【分析メモ】小学校、中学校ともに「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、全国と比較して課題が見られました。単に言葉を知っているだけでなく、文脈に合わせて適切な言葉を選び、表現する力が求められます。授業や学習場面だけでなく、日常生活の中でも、言葉を正しく理解し、適切に使うための基礎的な知識や技能を身に付けていく必要があります。中学校では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「思考・判断・表現」「記述式」の問題が全国平均を上回っています。論理的に思考し、自分の考えをまとめる力やそれらを表現する力が身に付いてきています。

数学の結果分析

小学校

良好	◇個別の問題 - 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかをみる問題（知識・技能） 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかをみる問題（思考・判断・表現）
課題	◆類型別 「数と計算」の問題 「記述式」の問題 ◆個別の問題 - 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかをみる問題（知識・技能） - 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかをみる問題（思考・判断・表現）

中学校

良好	◇類型別 「データの活用」の問題 「記述式」の問題 ◇個別の問題 - 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる問題（思考・判断・表現） - 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題（思考・判断・表現）
課題	◆類型別 「関数」の問題 ◆個別の問題 - 変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかをみる問題（知識・技能）



各教科の問題は「国立教育政策研究所 HP」で見ることができます。↓↓↓

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.htm>

4 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

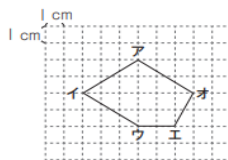


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



わかな 私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



ゆうた 私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何 cm^2 になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積 = たて $\times$ 横
= 横 $\times$ たて
- ・ 正方形の面積 = 1辺 $\times$ 1辺
- ・ 平行四辺形の面積 = 底辺 $\times$ 高さ
- ・ 三角形の面積 = 底辺 $\times$ 高さ $\div 2$
- ・ 台形の面積 = (上底 + 下底) $\times$ 高さ $\div 2$
- ・ ひし形の面積 = 対角線 $\times$ 対角線 $\div 2$

【分析メモ】小学校では分数やグラフの読み取り、面積の求め方（いずれも記述で答える問題）、中学校では素数や一次関数、図形の証明といった基礎的な知識の応用や深い理解を求める問題で、全国と比較して課題が見られました。中学校では、「記述式」の問題が全国と同レベル、データを活用する問題が全国平均を上回っています。小学校の算数においては、数と計算における知識や概念を深く理解することと数学的な表現を用いて説明する力を身に付けていくことが必要です。中学校の数学では、「素数」や「変化の割合」などの基礎概念を本質的に理解することが求められます。

今回、中学校の理科では、「IRT スコア」という指標を使っています。これは、学力の達成度を測るための指標です。従来の「平均正答率（何問中何問正解したかの割合）」とは異なり、問題ごとの難しさや、児童生徒の解答のパターンを加味して算出される指標です。



理科の結果分析

小学校

良好	◇個別の問題 ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかをみる問題（知識・技能）
課題	◆類型別 ・「生命を柱とする領域」の問題 ・「記述式」の問題 ◆個別の問題 ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができるかをみる問題（思考・判断・表現）

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

中学校

良好	◇類型別 ・「粒子を柱とする領域」の問題 ・「記述式」の問題 ◇個別の問題 ・身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかをみる問題（思考・判断・表現）
課題	◆類型別 ・「生命を柱とする領域」の問題 ◆個別の問題 ・水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかをみる問題（知識・技能）

(4)

呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでもかまいません。

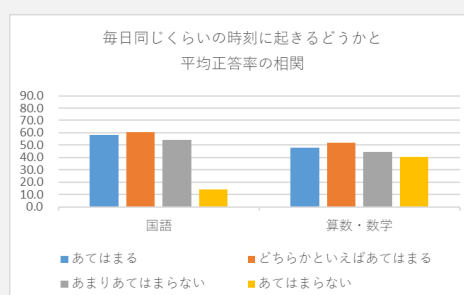
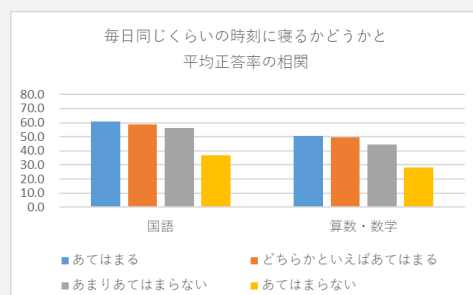


【分析メモ】「生命を柱とする領域」について、小学校・中学校ともに課題が見られました。また、小学校では、出題形式別で見ると「記述式」の問題に課題が見られました。児童生徒が知識の定着だけでなく、問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習した知識を実生活や科学的な事象に活用できるような学習計画の設定が必要です。中学校では、習得した知識を活用して科学的に判断し、表現する力が身に付いてきています。

「生活」に関する調査結果

御前崎市スクラム運営協議会重点項目「早寝・早起き・朝ご飯」に関する指標について

単位%	毎日同じくらいの時刻に寝ている		毎日同じくらいの時刻に起きている		朝ごはんを毎日食べている	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国
小学6年	79.6	81.9	92.4	91.0	96.0	93.7
中学3年	85.7	81.0	95.8	92.6	94.7	91.2



全国的な調査データに基づき、規則正しい生活習慣、特に「早寝・早起き・朝ご飯」の要素が、児童生徒の学力の高さに関連していることを示唆しています。学力向上を目指す上での重要な基盤作りと捉え、生活面の重点軸として今後も「早寝・早起き・朝ご飯」を大切にしていきたいです。

